2013
Vol.8

九大別府病院だより

Kyushu University
Beppu Hospital

❷ 第１回市民公開講座開催
❸ おんけん症例検討会開催
❹ 強度変調放射線治療（IMRT）のご案内（放射線科）
❺ 外科医師着任の挨拶（乳腺外科）
❻ 温泉アンケートの続報
別府市民健康セミナー（出前セミナー）のご案内
❼ 地域医療連携室より

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital

第１回市民公開講座を開催しました。

8月17日（土）別府亀の井ホテルにおいて、九州大学病院別府病院第１回市民公開講座を開催しました。

市民公開講座は、平成17年度から年間３回程度、市内にある会場で当院の医療従事スタッフが講演を行ってきましたが、平成25年度からは趣向を変えて、従来の当院医療従事スタッフの講演に加え、学外の有識者を招いての特別講演を企画いたしました。

認定 NPO 法人ロシナンテス
理事長 川原尚行氏

今回、その第１回目で、九州大学医学部出身の外科医でもある、認定NPO法人ロシナンテス理事長の川原尚行氏をお招きして、「明日の子どもたちの笑顔のために―スーダン・東日本大震災での活動―」の講演を開催いたしました。

特別講演に先立ち、三森功士病院長から、病院のスローガンである「諦めない診療」－難治性の病気－に対して「諦めない姿勢を見てほしい」と挨拶がありました。引き続き、当院の４診療科の紹介が行われ、リウマチ・膠原病専門の堀内孝彦内科長から、九大と北大だけで行われている「造血幹細胞移植療法」を用いたリウマチの「生物学的製剤による劇的治療効果」について紹介があり、別府にいながら九州大学が提供する世界標準の医療が提供できるということでした。三森功士外科長からは大学病院外科の役割について、土井俊郎整形外科長からは寝たきりを防ぐせぼねの役割として、要支援・要介護の大きな要因となっているロコモティブシンドロームについて、平川雅和放射線科長からはCTコロノグラフィー（仮想内視鏡）と放射線治療についてそれぞれ紹介がありました。

後半は、アフリカのスーダンで医療、教育などの支援活動を行っており、東日本大震災でも被災地にいち早く入り復興支援を続けている川原尚行氏の特別講演が行われました。東日本大震災では、子どもたちの学習支援のため「寺子屋」や仮設住宅に住む高齢者を対象とし、医療と農業による健康作り「健康農業」などの復興支援を続けており、現在もスーダンと日本を行き来しながら活動を続けられています。スーダンの子どもたちを招いて日本の子どもたちと運動会を行い、競技を行うことで芽生えた団結力、チームワーク、助け合い、喜び合い、強い絆が生まれたのではと感じられました。未来を担う子どもたちへ、病院を建てるという大きな目標があるということで、募金活動も行われていました。「ひとりはみんなの為に、みんなはひとりの為に」今いる所で、できることをする、ということを学んだ講演会でした。

講演会の様子

（文責　地域医療連携室　小出）

「おんけん症例検討会」を始めました

平成25年1月17日に外科を中心に「第1回おんけん消化器・乳腺症例検討会」を始めました。地域の病院や診療所よりご紹介していただき当院で手術を行った消化器がんや乳がんの患者さんの画像検査、手術経過、病理結果などについて地域の先生方と当院各科の医師が一緒に振り返りながら勉強をする機会を持ちました。この会は治療を行った症例の1例1例を丁寧に見直すことで今後のより良い診療につなげることと、さらには病院と診療所の地域医療連携の緊密化をはかることを目的としております。手作りの会でしたが、総勢30人以上の出席者があり非常に有意義な会となりました。3ヶ月に1回の定例の勉強会となり第2回を4月18日、第3回を7月8日に行い、出席者も会を追う毎に増えて参りました。会の後半では特別レクチャーとして当院の外科や放射線科の医師による最新の医療情報の発表も行いました。

会をさらに発展させて、今回からは、内科と外科が合同で開催し、「おんけん症例検討会」として、「がん」「消化器疾患」だけでなく「リウマチ・膠原病」、「糖尿病」、「循環器疾患」なども一緒に学ぶ会にしていくことになりました。今回、第4回を10月1日に病院の視聴覚ホールで行いました。今までどおり当院で治療を行った症例の検討会と、臨床的に重要かつホットな話題、今回は内科から「膵疾患と糖尿病」について短時間のレクチャーを行いました。別府市民に長く親しまれている「おんけん」の名前を入れた勉強会を名前同様長く続けて行く事で別府のより良い医療に還元できるようにしたいと考えています。オープンでフランクな会でありますし、貴重な時間を無駄にしないよう有意義な勉強会となるよう努力していきますので多くの先生方に参加していただきますようお願いいたします。なお、この会は、今回から「日本医師会生涯教育制度適合学術集会（１単位）」として認められました。次回は平成26年1月23日木曜日に開催予定です。今後の開催日程につきましては、大分県医師会のホームページでもご覧いただけますので、お気軽にご参加いただけますようお願い申し上げます。

（文責　外科　杉町圭史）

おんけん症例検討会の様子

当院での強度変調放射線治療(IMRT)

当院の放射線治療は、平成21年4月に放射線治療機器(リニアック)ONCOR(Siemens社製)を導入して診療を開始し、今年で5年目を迎えました。

本年5月より、放射線治療専従の常勤医が1人増員となり、大分県内でも稀少な「強度変調放射線治療(IMRT)」の認定施設となりました。**8月からは、日本医学放射線学会 放射線治療専門医2名体制となり、これまで以上の高い診療レベルのもと、安全で低侵襲な放射線治療を患者さんに提供して参ります。**

強度変調放射線治療(IMRT)とは、専用のコンピュータを用いて照射野の形状を変化させたビームを複数用いて、腫瘍の形に適した放射線治療を行う新しい照射方法です。腫瘍に放射線を集中し、周囲の正常組織への照射を減らすことができるため、副作用を増加させることなく、より強い放射線を腫瘍に照射することが可能になります。

従来の放射線治療では、マルチリーフコリメータと呼ばれる数mm幅の金属の板により放射線を照射する形状を作っていますが、IMRTではさらにこのマルチリーフコリメータを照射中に移動させることで、放射線の強弱をつけ、腫瘍の形状に合わせた線量分布を形成でき、正常組織の被ばく線量をより低減できます。

前立腺癌に対するIMRTは、他の根治的治療法である手術、小線源治療と比較し、低侵襲で生活の質(QOL)の低下も少ない、患者さんにとても優しい治療であります。ご高齢の方でも安心して治療を受けていただくことができます。ホルモン治療と併用する場合もありますが、十分に根治が可能な治療法であり、他の根治的治療法である手術、小線源治療との治療成績も同等と言われております。当院では、平成22年3月より開始し、平成25年8月現在、症例数は70症例を超え、重篤な副作用なく、患者さんの満足度も非常に高い治療が提供できております。

(文責　放射線科治療専門医　渥美和重)

放射線治療専門医、放射線技師、専任看護師のチームで治療にあたります

放射線治療の依頼について

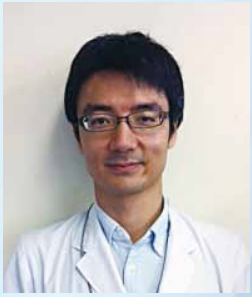
放射線治療の新患受付は

月・火・木曜日　午前9:00～11:00 です。

※事前にご連絡(電話、FAX等)いただけると幸いです。
患者さんの待ち時間も短く、診療がより一層スムーズになると思われます。

お問い合わせ、その他何かご不明な点などございましたら

地域医療連携室
0120-272-518(専用) か
0977-27-2055(直通)
までご連絡ください。



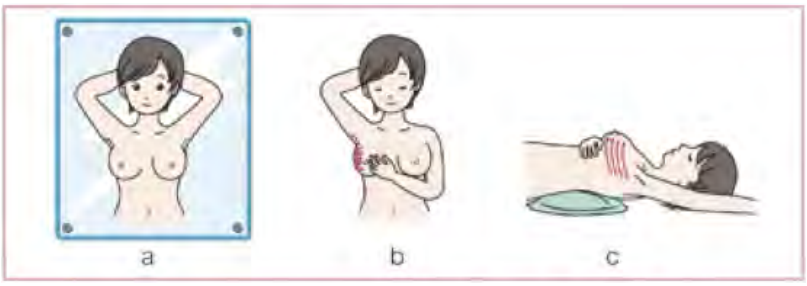
外科医師着任の挨拶

乳腺外科　新田　吉陽

平成25年6月より九州大学病院別府病院外科に赴任いたしました、新田吉陽（しんでんよしあき）と申します。私は鹿児島県出身で平成20年に鹿児島大学医学部を卒業後、鹿児島大学の消化器・乳腺甲状腺外科学講座に入局いたしました。これまでは鹿児島のいろいろな病院で勤務させていただきましたが、この度、三森先生から機会をいただき、当院で勤めさせていただくことになりました。

鹿児島県も温泉が売りの一つなのですが、別府市に来て驚きました。街の中にたくさんの湯けむりが上がっておりますし、温泉の数も段違いに多いです。6月から別府に移り住んで暑い夏も終わり、涼しい秋を迎えました。冬には温泉に入って身体を温めるのを楽しみにしております。

私は乳腺疾患を専門に診療をさせていただいております。日本人の乳癌は年々増加傾向にあり、最近では日本人女性の約16人に1人が一生の間に乳癌にかかるといわれています。また、他の癌と比べると若い方でも発症することが多いのが特徴です。日頃から注意を怠らず、積極的に乳癌検診を受けていただきたいと思います。乳癌の治療成績は一般に良好で、早期発見して根治することも十分期待できる病気です。治療方法は手術に加え、放射線治療、抗癌剤、分子標的治療薬、ホルモン治療薬など様々な選択肢があります。手術にも乳房切除術（乳房を全て切除します）と乳房部分切除（癌とその周りの乳腺組織を切除する、いわゆる温存手術です）とがあります。たくさんの選択肢がある中で、癌をしっかり治す「根治性」と「整容性」とのバランスがとれた治療方法をご提案し、ご本人にも納得して治療を受けていただけることを心がけております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



日本乳がん学会ホームページより

自己検診の方法

a）鏡に向かい、乳房の変形や左右差がないかをチェックする
b）渦を書くように手を動かして、指で乳房にしこりがないかをチェックする
c）仰向けになって外側から内側へ指を滑らせ、しこりの有無をチェックする

（実施時期）

・閉経前の人は、月経が終わってから１週間後くらいに行う。（排卵から月経終了までは乳房が張るため）
・閉経後の人は毎月、日にちを決めて行うとよいでしょう。

Report

別府市「温泉と健康に関するアンケート」調査について（続報）

別府は、世界に冠たる温泉地域で、温泉源泉数が2,300ほどあり、１地域の温泉源泉の数としては世界一を誇ります。私どもはそこに立地する病院として、地の利を生かし、ますます超高齢化する本邦において、長い歴史のある温泉治療を高齢者の慢性疾患への治療応用に向けて、温泉の医学的効用を確認する目的で、65歳以上の別府市民の方々を対象に、これまでにかかった病気と温泉の利用状況のアンケート調査を別府市、別府市医師会と九州大学病院別府病院が協働で実施致しました。

平成24年11月現在、別府市には65歳以上の高齢者が約35,000人おられますが、うち20,000人の方を無作為に選びアンケート用紙を郵送して調査致しました。アンケートは、年齢、性別、利用している温泉の種類、利用頻度、一回入浴時間、利用年数、利用時間帯と、15項目に及ぶ既往疾患を多肢選択してもらう形式で行いました。H25年2月末の時点で、11,146通の有効回答を受け取りました。解析途中ですが、現時点では、対象既往疾患として、本邦の３大疾病である、がん、心臓病、脳卒中について、温泉利用頻度、一回入浴時間、利用年数との関連を調べましたところ、毎日温泉入浴するヒトでは、虚血性心疾患と脳卒中の既往が少なく、一回入浴時間が20分以上では、虚血性心疾患の既往が少ないという結果でした。このことは、連日、一定時間以上温泉入浴することで、心臓病や脳卒中が減った可能性がある反面、こういった病気を患ったために温泉入浴をあまりしなくなったという可能性もあります。こういったことを区別するために、今後は、性別、年齢層などを区切って再検討したり、入浴している温泉の種類、すなわち泉質を検討材料に加えるなどして、さらに細かい分析を続けて、温泉独自の効果の検証を進めたいと考えております。

（文責　内科　前田豊樹）

出前セミナー始めました！

平成25年度　別府市民健康セミナー 一覧

高齢者の疾患	①	寝たきりにならないためのコツ ―骨（コツ）粗鬆症にならないために	堀内
	②	動脈硬化の予防のための生活の知恵	堀内
	③	ふしぶしの痛みがあるときに ―知っておきたい鑑別疾患と対処法―	堀内
	④	リウマチとはどんな病気なの？～元学会会長が、やさしく教えます	塩澤
	⑤	「胸焼け」「痔」「ヘルニア」外科が治せる高齢者疾患	主藤
	⑥	ぜひ腰痛で手術が必要なヒトとは？	土井
心臓・循環器	⑦	心臓が原因で脳梗塞にならないための検査と新しいお薬のお話	樋口
糖尿病	⑧	膵臓と糖尿病について	有田
温泉の効能	⑨	「温泉と健康」NHKでおなじみ！別府市民65歳以上１万人の集計結果は？	前田
神経内科	⑩	「ふるえ」の話 ―パーキンソン病について―	前田
	⑪	頭痛について	前田
	⑫	老化とメタボリック症候群	前田
がん	⑬	意外に多い「血液のがん」について	平瀬
	⑭	日本人、大腸癌・胃癌・食道癌になりやすいヒトの特徴	三森
	⑮	大腸癌・胃癌・食道癌の治療～低侵襲の手術～	三森
	⑯	乳癌の診断と治療～最新の情報～	三森
	⑰	沈黙の臓器「肝・胆・膵」がんの診断と治療	杉町
	⑱	がん緩和医療「モルヒネ、在宅がん療法」について	主藤
	⑲	あきらめないがん治療 ―九大別府病院の放射線治療―	平川
	⑳	内視鏡検査なんて怖くない！	江口

地元の老人会、自治会、婦人会、勉強会、社内セミナー等にお役立てください（お問い合わせ 医局 0977-27-1650）

病院の理念・基本方針

理　念　患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針
- ◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ◆全人的医療が可能な医療人の養成
- ◆国際化の推進
- ◆プライマリ・ケア診療の充実
- ◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ◆生活の質が向上できる医療の提供

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。

患者さんの権利

1．個人としての尊厳、人権が尊重されます。
2．良質で適切な医療を平等に受ける権利があります。
3．自分の状態や医療行為について十分理解できるまで説明を受ける権利があります。
4．上記の説明を受けた上で、自由意志に基づき医療行為を選択・決定する権利があります。
5．診断や治療方針について他に意見を求めたい場合は、セカンドオピニオン制度を利用することができます。
6．自分の診療に関する記録など情報を得る権利があります。
7．プライバシーが尊重され、個人情報が保護される権利があります。

患者さんへのお願い

1．ご自身の健康状態及び変化は、速やかに正確にお伝えください。
2．検査や治療などの医療行為は、十分な理解と合意の上で受けてください。
3．全ての患者さんが快適な環境で適切な医療を受けることができるように、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
4．本院は、教育・研究病院であり、医療専門職の教育や新しい診断・治療法を開発するための研究を行っています。ご理解とご協力をお願いします。

地域医療連携室より

整形外科外来の完全予約制の導入について

整形外科の初診外来について、7月から完全予約制を行っております。

前回、広報誌郵送の際に、ご案内の用紙を入れさせていただきましたが、おかげさまで、以前は、初診患者さんの待ち時間が3～4時間と長くなっておりましたが、完全予約制を導入してからは、外来受診がスムーズに行われております。これもひとえに紹介元の先生方のおかげと感謝しております。今回、紙面にて整形外科外来の予約方法についてご案内させていただきます。

①脊椎疾患の紹介患者さんがいらっしゃいましたら、紹介状を書いていただきFAXしていただくか、お電話をいただきます。(FAX:0977-27-3008、TEL:0977-27-2055)
（前もって、患者さんのご希望の外来日（候補をいくつかお聞きいただければありがたいです）・時間・担当医についてご確認願います。）
②地域医療連携室の事務と、紹介元の病院・医院の受付の方とで話をして、その場で外来日時、担当医を決めてご案内いたします。
③その場に患者さんがいない場合は、こちらから患者さん宛に連絡をいたします。
④外来の曜日は、火曜と木曜で、予約時間は9時、10時、11時で、医師3名が担当いたします。
⑤患者さんは、予約時間の約30分前においでいただけますようご案内ください。（予診等の書類の記入があります）

予約の電話については、紹介元の病院等から地域医療連携室あてにご連絡いただけますようお願いいたします。

完全予約制の導入により、ゆったりとした時間と環境の中で診察が可能になっております。患者さんの満足度の向上、待ち時間の短縮も図れているのではと思いますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

九州大学病院別府病院　外来診療案内

（平成25年10月1日現在）

科名		診療区分	月	火	水	木	金
内科	免疫・血液代謝内科	リウマチ膠原病	堀内孝彦 平瀬伸尚 有田好之	堀内孝彦 生山祥一郎 有田好之 塩沢俊一	生山祥一郎 平瀬伸尚 合田英明 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 生山祥一郎 平瀬伸尚 有田好之
		内分泌・糖尿病	有田好之	生山祥一郎 有田好之	生山祥一郎		生山祥一郎
		血液病	平瀬伸尚	――	平瀬伸尚		平瀬伸尚
		骨粗しょう症	――	生山祥一郎	生山祥一郎		生山祥一郎
		消化器・膵疾患	有田好之	有田好之	――		有田好之
	循環・呼吸老年病内科	循環器・呼吸器	樋口義洋 小柳雅孔	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔(第1,3,5)	小柳雅孔
		老年病	――	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	――
		睡眠時無呼吸外来	小柳雅孔	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔(第1,3,5)	小柳雅孔
		禁煙外来(全予約制)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
外科		一般・消化管	三森功士 杉町圭史 主藤朝也 江口英利	手術日	三森功士 杉町圭史 主藤朝也 江口英利	手術日	三森功士 杉町圭史 主藤朝也 江口英利
		肝・胆・膵	杉町圭史 江口英利		杉町圭史 江口英利		杉町圭史 江口英利
		乳腺	三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽
		肛門	主藤朝也		主藤朝也		主藤朝也
		セカンドオピニオン	――		要予約(第1,3)午後3:00～		――
麻酔科		疼痛外来(全予約制)	手術日	手術日	手術日	手術日	吉武慎一郎 手術日
整形外科		脊椎外科	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志	手術日
放射線科		放射線治療	渥美和重	渥美和重	――	渥美和重	――
		放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和

初診・再診の受付時間 8:30～12:00

整形(火・木) ―完全予約制：初診は地域医療連携室へ要Tel
放射線治療(月・火・木) ―初診 8:30～11:00
※但し土日、祝祭日は休診(急患は除く)

地域医療連携室より　〈問い合わせ先のご案内〉

◆ CT・MR・内視鏡検査のご依頼 ◆

放射線科受付 0977-27-1722(直通)

・検査依頼は、電話にて受け付けております。
依頼検査優先時間帯を設けています。
・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆ 放射線治療のご依頼 ◆

地域医療連携室 0120-272-518(専用)
0977-27-2055

・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関するお問い合わせ

月～金　8:30～17:00　0120-272-518(専用)
TEL:0977-27-2055(直通)　FAX:0977-27-3008(24時間受信可)

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital
〒874-0838　別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地
代表　TEL 0977-27-1600
URL　http://www.beppu.hosp.kyushu-u.ac.jp/